再評価結果（平成１９年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村　昌司

事業名	荒町（あらまち）バイパス（一般国道２９０号）	事業区分	一般国道	事業主体	新潟県
起終点	自：新潟県新発田市荒町（しばたしあらまち） 至：新潟県新発田市荒町（しばたしあらまち）			延長	0.9km

事業概要　一般国道290号は、新潟県村上市（むらかみし）を起点とし、新潟県魚沼市（うおぬまし）に至る幹線道路である。
荒町バイパスは線形不良の解消及びJR羽越本線の立体化により安全で円滑な交通の確保を目的とした延長0.9kmの２車線道路である。

Ｈ９年度事業化	平成４年度都市計画決定	Ｈ12年度用地着手	Ｈ９年度工事着手
全体事業費	約15億円	事業進捗率	55%
供用済延長	0km		
計画交通量	11,600台／日		

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体)4.1 (残事業) 8.7	7/15億円 事業費：6/14 億円 維持管理費：1/ 1 億円	61/61億円 走行時間短縮便益：61/61 億円 走行費用減少便益：0/ 0 億円 交通事故減少便益：0/ 0 億円	平成１８年

感度分析の結果　交通量変動：B/C=9.7（交通量+10%）　B/C=8.0（交通量-10%）
事業費変動：B/C=8.1（事業費+10%）　B/C=9.6（事業費-10%）

事業の効果等
・国土・地域ネットワークの構築・・・日常活動圏の中心都市「新発田市」へのアクセス向上が見込まれる。
・個性ある地域の形成・・・・・・・・主要な観光地「月岡温泉」へのアクセス向上が見込まれる。
・災害への備え・・・・・・・・・・・対象区間が緊急輸送道路ネットワーク計画に位置づけ有り
他２項目に該当

関係する地方公共団体等の意見
沿線市町村で構成される「一般国道290号新発田・村松間整備促進期成同盟会」を組織し、国・県に積極的に要望活動を行っている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
H16年3月の新発田南BPの開通および周辺土地利用の進展(大規模小売店舗の立地等)により交通量が増加している。(国道460号　H11センサス：9,941台/日　H17センサス：14,858台/日)
(国道290号　H11センサス：6,899台/日　H17センサス：6,245台/日)

事業の進捗状況、残事業の内容等
H17年に用地取得が完了しており、残事業区間については、0.94kmのバイパス工事である。

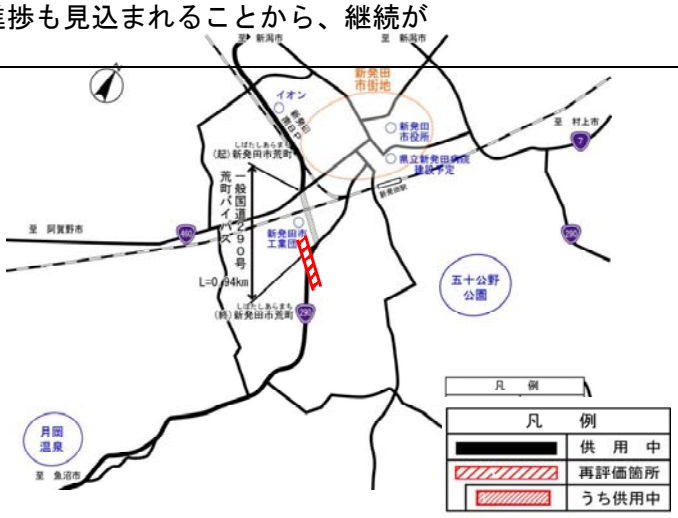
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
用地取得に時間を要していたが、H17年に用地取得が完了したため、工事を進め、事業の早期完成を図る。

施設の構造や工法の変更等
特になし

対応方針　事業継続

対応方針決定の理由
事業の必要性や重要性は高く、事業進捗も見込まれることから、継続が必要である。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。